

岩手山の恵み「柳沢大湧口」 みんなでこの水を守り続けたい

特集!
市長インタビュー



「いわての名水二十選」に選ばれている柳沢大湧口。市長が「もっと多くの市民に知ってもらいたい」と愛着を持っている場所です。そこで、実際に柳沢大湧口に行き、滝沢の水についてインタビューを行いました。

湧口との出会い

大湧口建屋の前に



議員になりたての頃、建屋の工事の後の確認で行きました。地面から湧き出る水量と水の美しさと川幅いっぱいに育つ梅花藻など水生植物に魅了されました。この大湧口をもっと住民の皆さんに知ってもらいたいんだよね。
湧口に初めて行くまでは、蛇口をひねれば水は出てくるものだと思ってた。どんなふうに取り水されているのか考えが及ばなかった。
だから、水源や水道について、子どもたちや住民の方には特に知ってもらいたいと思う。

水源としての地下水

岩手山の湧水として自然に出てきたものを各家庭の蛇口まで届けているというのは素晴らしい財産だなと思います。98%を超える地下水使用、これをぜひわかってほしい。地下水を100%近く使っている水道は岩手県内では滝沢くらいじゃないかな。

湧口から流れ出す水に触れて



湧口の活用



滝沢の水源について市からお知らせすることで全然違うと思うんだよね。みんな岩手山を眺めるから、岩手山の湧水ってことを売り文句にね。
あと、湧口の水をただ流すのはもったいない。貝を育てたり、ワサビとかもよく聞きますね。あとは発電とかもっといろんなことに活用していきたいなあ。

柳沢大湧口(やなぎさわだいわくつ)

「いわての名水二十選」(昭和60年度岩手県選定)の湧水。1日2万6千 m^3 湧き続けているといわれ、かんがい用水や水道水として利用されています。かつて岩手山麓一帯が馬産地だった頃、馬の水飲み場としても利用されていました。宮沢賢治の詩集「春と修羅」にも取り上げられています。

柳沢大湧口を市の水道水源としている地域は、一本木地域になります。
※柳沢大湧口は、普段は立ち入り禁止です。